

平成17年7月20日

京 都 市

都市計画局都市景観部景観企画課
電話 222-3397

「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」の設置について

～歴史都市・京都にふさわしい景観の保全・創出を目指して～

京都市は、1200年を超える悠久の歴史に生まれ、今日もなお、日本の伝統・文化が生き続ける歴史都市です。優れた自然・歴史的景観等を守るため、風致地区制度の活用と併せ、全国に先駆けて市街地景観条例を制定し、美観地区制度を駆使して美しい景観の維持を図ってきているほか、景観法の制定を受け、全国初となる景観整備機構の指定を行うなど、景観行政のトップランナーとして果敢に景観対策に挑んできました。

しかし、我が国の社会経済情勢の変化等により、伝統的な生活文化を育み、形成してきた京町家や三山の眺望をはじめとする貴重な景観資源が消失するなど、京都らしい景観が失われつつあります。

そのため、50年後、100年後の京都の将来を見据えると同時に、世界に冠たる「京都創生」にふさわしい景観の保全と創造を目指し、実効ある具体的政策を早急に確立することを目的として、「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」を設置することとしました。

記

1 諮問趣旨

『時を超え光り輝く京都の景観づくりについて ～歴史都市・京都にふさわしい京都の景観のあり方について～』

京都の将来を見据え、「規制と活力の両立」を図る中で、景観を重視した建築物等の規制・誘導の手法や、良好な眺望等を次の世代に引き継ぐための方策等を検討いただく。

2 諮問に当たったの4つの視点

○建築物の高さやデザインの更なる規制・誘導

幹線道路沿いなど規制の緩やかな地域では、マンション等の中高層建築物が建設され、京町家などの周辺建築物と不釣り合いな景観を生み出している。また、高さや容積が規制されている地域でも、周辺と調和しないデザインの低層建築物が建設されており、「高さ」と「デザイン」の両面から規制・誘導を考える必要がある。

○眺望景観や借景の保全

中高層建築物等の建設により、市街地から見た三山や鴨川等の河川の眺めが阻害されたり、寺院等の庭園の借景が失われる状況が生じており、これまでの対策では守れない遠景についても対策を講じる必要がある。

○京町家など歴史的建造物の保全とそれを活用した都市景観の形成

生活様式の変化や町家の老朽化、相続時の処分等を背景とした、都心部の京町家の急激な減少（7年間で13%の京町家が減少）など、「京都らしい町並み」が失われつつある。京町家など歴史的建造物を保全し、優れた都市景観の形成に活用していく方策を早急に検討する必要がある。

○看板など屋外広告物や駐輪・駐車対策の強化

看板等の屋外広告物は、その大きさやデザインによっては市街地景観を大きく損ねる。また、特に幹線道路での違法駐輪・駐車は安全上はもちろん、景観の観点からも深刻な問題となっており、対策を強化する必要がある。

3 委員の構成

学識経験者（景観、デザイン、建築、法律、経済、歴史の各分野）、経済界、芸術文化、報道機関、市民公募委員からなる20名の委員で構成する（別紙一覧参照）。

4 スケジュール

平成17年7月25日	第1回審議会の開催	
平成17年～18年	審議	
	市民フォーラム等の開催	} ※審議会で論点が整理された段階で実施
	パブリックコメントの実施	
平成18年度	最終取りまとめ・答申	

答申を受け「時を超え光り輝く京都の景観づくり構想（仮称）」（※）を策定
（※）「時を超え光り輝く京都の景観づくり構想（仮称）」

京都市の景観形成上重要な4つの視点を踏まえ、地域の特色に応じた景観基準の策定、既存の規制地区の見直しと拡大などの方向性を盛り込んだ、景観政策の新たな基本方針となるもの。

<4つの視点>①建築物の高さやデザインの規制・誘導

②眺望景観や借景の保全

③京町家など歴史的建造物の保全とそれを活用した都市景観の形成

④看板など屋外広告物や駐輪・駐車対策

5 第1回審議会の開催

(1) 開催日時

平成17年7月25日（月）午前9時30分～午前12時

(2) 開催場所

京都市勧業館「みやこめっせ」大会議室（京都市左京区岡崎成勝寺町9-1 TEL 075-762-2630）

(3) 議題等

ア 京都市における景観に関する制度の現状、課題等について

イ 今後の審議会における審議事項及び今後のスケジュール等について

(4) 会議の傍聴

ア 傍聴定数（予定）

20人（報道機関向け座席は別途用意） ※会場の都合により変動することがあります。

イ 傍聴の受付方法

当日の午前9時から午前9時15分まで受付にて行う（定員を超えた場合は、抽選により決定）。

時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会委員名簿

(五十音順, 敬称略)

荒川 朱美	京都造形芸術大学教授 (環境デザイン学科)
池田 有隣	京都工芸繊維大学名誉教授
市田 ひろみ	服飾評論家
川崎 清	京都大学名誉教授
黒田 正子	エッセイスト, 編集者
金剛 育子	能楽・金剛流宗家夫人
関根 英爾	京都新聞社論説委員
田坪 良次	京都市立芸術大学名誉教授
巽 和夫	京都大学名誉教授
田端 泰子	京都橘大学長
中井 忍	雑誌編集者, (有) ホンヌ代表取締役
西島 安則	京都市産業技術研究所所長
樋口 忠彦	京都大学大学院教授 (工学研究科都市環境工学専攻)
村田 純一	京都商工会議所会頭
森本 幸裕	京都大学大学院教授 (農学研究科・環境デザイン学分野)
門内 輝行	京都大学大学院教授 (工学研究科建築学専攻)
安本 典夫	立命館大学教授 (法務研究科)
山田 沙	市民公募委員
吉井 英雄	市民公募委員
若林 靖永	京都大学大学院教授 (経済学研究科)